

音更町総合計画審議会会議結果（要旨）

会議名	音更町総合計画審議会 生活基盤部会（第2回）
開催日時	平成27年7月27日（月） 午後6時30分から午後8時30分
開催場所	音更町役場2階 第1・第2委員会室
委員出席者	小林部会長、赤嶺部会長代理、宇佐美委員、大淵委員、鬼塚委員、杉山委員、東端委員、藤沼委員、目黒委員
事務局出席者	恩田建設水道部長、岩館建設水道部次長、中野建設水道部次長、鈴木都市計画課長、原都市計画課参事、下口谷土木課長、国枝建築住宅課参事、傳法企画財政部長、西岡企画調整係長、清水企画調整係主任
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会長あいさつ 2 会議の進行等について 3 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本計画の見直しについて 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回審議会の開催日程について
会議資料	基本計画修正案、施策評価調書
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>※前回の意見等に対する回答・対応の説明</p> <p>■景観</p> <p>意見等：施策（2）に街路樹に関する記述があってもよいのでは。</p> <p>事務局：意見を踏まえ、街路樹は景観を構成する重要な要素であり、町の景観づくり基本計画、緑の基本計画には位置づけられているものの、総合計画には記載がないので、めざす方向の施策（2）②に、「沿道景観づくりのため、」の後に、「主要な道路の緑化、」の文言を追加し、②を「沿道景観づくりのため、主要な道路の緑化、景観に配慮した大型広告物への指導、助言に努めます。」と修正したい。なお、道路の分野については、めざす方向で、町道の整備、維持管理の推進を記述しており、街路樹も道路付帯物であることから、ここで読み取ることとしたい。</p> <p>意見等：目標指標（2）、（3）について、分かりやすい目標指標を設定するべき。景観緑肥の助成等具体的なものがあればそれを目標指標としてもよいのでは</p> <p>事務局：意見を踏まえ、（2）の目標指標を「音更らしい景観づくりに係る事業件数」、説明として「官民連携による景観づくり事業件数」、中間数値 H26 に 1 件、これは音更メロディーライン事業を対象として考えている。H32 には、目標数値として 3 件程度としたい。また、（3）の目標指標を「音更らしい景観の形成、保護に関する事業件数」、説明として「地域特性を活かした事業件数」、数値として、中間数値 H26 に 2 件、これは駒場の白樺並木更新やひまわり種子助成を対象としている。H32 には、目標数値として 3 件程度に修正したい。</p> <p>■道路</p> <p>意見等：施策（3）③の「ネットワーク化の促進」は何を意味しているのか。</p> <p>事務局：街路や高規格の道路の歩道、これらをつないでネットワーク化としようという考え方で、音更川の堤防を利用した自転車歩行者道であるチェリングロードや道道十勝川温泉帯広自転車道を活用して、街路などの広い幅員の歩道などを</p>

つなぐことでネットワーク化して、日常のレクリエーションや通学などの利用や、ジョギングなどの健康増進を図ることとしている

意見等：国道に関して、交通事故防止のため防護柵を国に要請したらどうか。実験的に自転車の通行帯を作ってはどうか。

事務局：国道 241 号の道路管理者は国、帯広開発建設部なので、このようなご意見を要請することは可能。総合計画においては、めざす方向、施策（２）①の「国道 241 号の交通事故対策事業の早期完成を関係機関に要請します。」の中で読み取ることとしたい。

意見等：国道の無電柱化について、災害時、地震時など、安全性はどうなのか。また、予算的なものはどうなのか。

事務局：道路管理者の国が実施するが、手法は未定で、これから設計されることになるかと思う。景観の面と、災害時の電柱倒壊による交通障害を防ぐことで都市防災が強化されるというメリットがある一方で、電線を埋めることでのデメリットがあるのかもしれないが、未定の部分が多い。予算的なことでは、工法等が定まっていない中で未定であるが、今のところ町の負担は無いと聞いている。

意見等：目標指標の数値の根拠と、（４）除排雪にはそれだけ力を入れるということか。

事務局：「（４）除排雪の推進」で、60.9 から 72 に上げる根拠について、アンケートの満足度なので、除排雪を迅速的確に実施し満足いただくという目標。1,000 人規模の町民アンケートを H24、H25 に行っており、H24 は 63.5%、H25 は 58.5% と、60% 前後で推移している。除雪に関しては、その年の降雪量が影響することもあり、実績値を参考としつつも、単純に 7 割程度の満足を得るということで、確たる根拠になるかどうかはわからないが、H32 目標値を 70% に修正したい。

意見等：個人的に音更は今まで住んできた中で、除雪が迅速で一番きれいだと思う。

事務局：アンケートなので人の感じ方による他、居住地が市街地か農村部かによっても、除排雪のスピードなどの違いがあると思う。音更の除雪は良いという声がありながら、一度雪が降って除雪すると 100 件 200 件の苦情が来る。そういう方からすれば、アンケートは、不満という回答になるのだと思う。町道の除雪については、町全域を区域分けして、それぞれを業者に委託をしている。雪国の問題として、除雪業者が不足している中、運転手の技術、経験などにより作業等にばらつきが生じるため、苦情が無くなることはないと思っている。ご意見のような、音更の除雪は良いという声が続くように努めていきたいと考えている。

事務局：目標指標について修正させていただきたい。目標指標（２）、（３）「道路の整備・管理」に対する満足度の中間数値について、H26 の町民アンケートの数値に変更し、それに基づき H32 の目標数値を見直したい。それぞれの表内の中間数値、H27、73.0%を、H26 に実施したアンケートの数値として、当初数値より下がるが、年度を H26、中間数値を 68.6% に修正したい。アンケートについては、H24、H25 にも行っているが、その満足度は、当初の 70.3% から、H24、68.5%、H25、65.2% と下がって、H26 に 68.6% に上がっている。道路整備は推進していくが、一方で老朽化が進むという実態もあり、H32 目標数値を 75% に修正したい。

■河川

意見等：目標指標はないのか。

事務局：国、道が管理している 1 級、2 級河川は 18 河川あるが、改修はほぼ終わっており、また、町が管理する準用河川、普通河川の 83 河川について、総合計画期間中に主だった事業がないため、目標設定をしていなかった。あえて設定する

とすれば、普通河川と農業サイドの明渠排水路が重複しているので、経済部会の所管となるが農業〔生産基盤や生産環境〕の分野で目標指標としている明渠排水路の整備延長を目標としてはどうかと考えている。

■公園、緑地

意見等：ワークショップを行って整備された公園が何箇所かあると思うが、満足度はどうなのか。

事務局：ワークショップをやったことによる満足度の検証はないこと、その後の考察については費用等も伴うので、今後どのように展開していくのかはこれからの課題であると考えていると回答した。ワークショップをやったことによる直接的な満足度の検証はないが、目標指標の（１）町民満足度の中で検証することとしたい。

意見等：高齢化が進んでいく中で、町内会や老人会が、今後どれだけ活動に協力していけるかということもあるので、未来に向けて子どもを取り込んだ活動、考え方をしてもよいのでは

事務局：作る公園の目的にもよるが、子どもの意見も取り入れていくべきと思うので、ワークショップには参加してもらおうようにしている。この計画の中から読み取るとすれば、施策（３）①の子どもから高齢者の意見を広く取り入れるために、幅広い範囲のワークショップを行う旨の記載が該当すると考えていると回答した。子どもを取り込んだ活動については、樹木更新の植樹など子どもが参加しやすい事業について町内会を通じてこども会へ呼びかけてもらうよう進めたいと考えている。

意見等：施策（２）、（３）について、ワークショップの成果を検証することが必要。ワークショップに関わったことで、維持管理に関わろうという意思を持つ人が出てくるので、そういったことも関連付けてやっていく必要があるのではないかと。

事務局：意見として承る旨回答したが、ワークショップの成果の検証は困難と考えており、アンケートによる「整備、管理の満足度」を上げることで、維持管理に関わる意識も増えると考えている。

事務局：目標指標について修正させていただきたい。（１）「公園・緑地の整備、維持管理」の表内の１段目の中間数値を、町民アンケートの満足度の数値に変更したい。H26 に実施している町民アンケートの数値に修正する。当初数値 84.4 %より下がるが、中間数値 86.0%を 78.5%に、年度 H27 を H26 に修正したい。なお、H32 の 87.0%は修正しない。

委員：公園全般について、ニーズを調べるのも良いが、統廃合を図っていかないと、ただ作ったということになってしまうのではないかと。時代のニーズなどに応じて変化させることも必要では。

事務局：昔は子ども向けということで、児童公園と呼んでいたが、現在は子どもだけでなくお年寄りにも向けた公園と位置付け、街区公園というように呼び方も変わっている。我々も、子どもだけでなく、例えば、IC 工業団地に作った公園には健康遊具、大人に向けた遊具も設置している。そういったこともワークショップの中でご意見いただき、変化していくのかなと思っている。

■住宅、宅地

意見等：子育て世帯向け民間賃貸住宅について、子育て世帯向けに限定した理由は。

事務局：すべての子育て世帯が公営住宅に入れる状況ではなく、子どもの数によっては狭いという声もあり、その中で、高齢者が使っていた一戸建てで、子ども達が独立して高齢者だけになってしまった、あるいは高齢者も施設に入ることに

なった、というような経緯で空き家になる広い住宅を、希望している子育て世帯に何とか貸すことはできないだろうか、そんな発想から子育て世帯を応援するために限定している。去年6戸の住宅に入居してもらったが、一戸建ての登録が進まない状況であり、貸してまで使っていただくところまでに至らない住宅もあるように聞いている。制度を普及させる上で、その辺りを理解していただきながら利用件数を増やしていきたいと考えていると回答したが、回答に変更はない。

意見等：民間住宅を活用した支援補助事業について、人口対策として面白いと思うので興味があったが、これは、入りたいという要望に対して全然足りない状況なのか。

事務局：昨年登録した住宅は13戸で、実際住宅を見て、古い、狭いというようなことや、公営住宅と比べると家賃補助を受けたとしても持ち出しが多く、公営住宅が空くのをもう少し待ちたいということで、希望者はいるが、それにマッチする住宅がなかなか見つからない状況ということで回答した。今後実施する空き家の実態調査により、子育て世帯向け家賃補助住宅として活用できそうな住宅については、所有者の理解を得ながら、登録を促していきたい。

意見等：この分野は空き家対策につきるのでは。

事務局：どちらかというと利活用に重きを置いて、空き家バンクを活用し、空き家の利活用の促進を図ると回答した。今後、重要な事項となるので、めざす方向の最後に、(5)として「空き家・空き地の有効利用」、主な内容に「①空き家・空き地の現状を把握し、利用可能な空き家・空き地の有効活用を図ります。」、さらに目標指標に(5)として、(1)から「空き地情報の公開件数」、「空き家情報の公開件数」を移動して、さらに、住宅土地統計調査の空き家率を追加したいと考えている。

■地籍調査

(意見等なし)

■水道

意見等：現状と課題で「農村部」という言葉を「簡易水道区域」に変えていて、施策の記述では「農村部」という文言が残っているがどういうことか。

事務局：普及率に関しては、農村部は簡易水道区域ということで水道区域になっているので、いわゆる農村地域の水道を確実に整備していくということで、農村部という言い方をあえてしており、農村部がすべて簡易水道区域になっているわけではないという押さえでお願いしたいと回答した。農村部においては、上水道と簡易水道の区域が存在することから、水道区域での記述ではなく、農村部という記述としている。

■下水道、排水処理

意見等：現状と課題の、雨水の整備率とは、雨水管の整備率か。

事務局：雨水管の整備率であり、表記を改めさせていただく。

■総合戦略策定に向けて

委員：JTI(移住・住みかえ支援機構)が取り組んでいる空き家対策について、大都市圏に限らず、地方都市でも提携して行われている。情報として、皆さんにお知らせしたい。(JTIの取組について説明)

事務局：空き地・空き家の有効活用ということで、重要な事項として盛り込みたいと

思っている。行政がどれだけ関われるのか、色々なご意見を聞いて判断したいと思う。

委員：なぜ空き家になってしまうのかという部分をもう少し考えていってもいいのでは。なぜ空き家になってしまうのかというところから、空き家を作らない、空き家を減らすという考え方があってもいいのではないか。空き地・空き家バンクは、空き家になってしまっからの対策としては良いと思うが、そもそもそういう状況を作らないという考え方も必要ではないか。色々な分野に関わってくることだとは思いますが。

※次回専門部会開催日時を8月28日（金）午後6時30分からとした。